

大阪母子医療センターにおける アセスメント機能強化事業の 取り組みについて

泉州圏域拠点医療機関 令和4年度大阪府委託事業

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪母子医療センター

子どものこころの診療科 平山 哲





令和4年度 大阪府委託事業

大阪府委託事業について

- ❖ 発達障がい医師養成研修
- ❖ 大阪府発達障がい専門医療機関とワーク拠点医療機関と登録医療機関の連携強化業務
- ❖ アセスメント機能強化業務





発達障がい医師 養成研修

令和4年度発達障がい専門医師養成研修

令和4年度の実施状況

- ❖ Covid-19の流行を鑑み、講義をe-learningで実施
- ❖ 集合研修代替措置として診療映像もe-learningで実施
- ❖ 講義内容は例年通り
- ❖ 本年度の受講希望者は小児科コースが34人
- ❖ 2回目以上の受講者は8人

講義内容

講義概要

○ オンライン講義

- 子どもの発達、病気、障がいについて
- 学校での実践的な取組について、発達障がい児者の就労について
- 医学的知識関係（診断および検査について）
- 医学的知識関係（発達障がいに関連する各種疾患 ADHD、LD、神経難病、虐待等）
- ペアレント・トレーニング、構造化、最新の知見 等

○ 集合研修

- 医学的知識関係（診断および検査について）
- 映像資料に基づいた事例検討 等



講師陣

講師陣（予定、50音順）

荒木 敦	氏	大阪旭こども病院
伊丹 昌一	氏	梅花女子大学
片山 泰一	氏	大阪大学大学院
小杉 恵	氏	大阪母子医療センター
酒井 佐枝子	氏	大阪大学大学院
永井 利三郎	氏	桃山学院教育大学
長富 義隆	氏	自閉症児支援センターWave
中西 真理子	氏	大阪大学大学院
新澤 伸子	氏	武庫川女子大学
西川 瑞穂	氏	かく・にしかわ診療所
花房 昌美	氏	大阪精神医療センター
平山 哲	氏	大阪母子医療センター
若宮 英司	氏	藍野大学 他



学習 マイページ

全てのタグ

キーワード入力

検索



絞り込みなし

インフォメーション

よくある質問

環境設定

ヘルプ

100% 大阪府発達障がい専門医
師養成研修（小児科コー
ス）

2023/03/01 ~ 2023/04/30

50% 大阪府発達障がい専門医
師養成研修（精神科コー
ス）

2023/03/01 ~ 2023/04/30

25% 2023発達障がい共通前
半

2023/03/04 ~ 2023/04/30

1% 2023発達障がい共通後
半

2023/03/10 ~ 2023/04/30

0% 2023発達障がい研修小
児科専門

2023/03/16 ~ 2023/04/30



3月31日時点の進捗状況

- ❖ 全コンテンツ受講修了者 27人
- ❖ 半数以上の受講者 2人
- ❖ 未受講者 5人





連携強化業務

大阪府発達障がい専門医療機関ネットワーク拠点医療機関と登録医療機関の連携強化業務

令和4年度の実施状況

❖ 医療機関から

- ❖ 診療についての相談 7件
- ❖ 緊急診療依頼の相談 2件
- ❖ 陪席研修の依頼 2件
- ❖ 事例検討会の参加依頼 2件





アセスメント 機能強化業務

特定の病院への受診の集中回避と負担減の取組を他の
医療圏域の拠点医療機関に示す事例を収集するため



2021年度 報告から

仮説

- ❖ エリアごとに
 - ❖ 医療機関以外の機関が関わる仕組み
 - ❖ 医療機関と合わせて関わる仕組み
 - ❖ 長期的に関わる機関構築
 - ❖ 関わるために必要な情報の蓄積

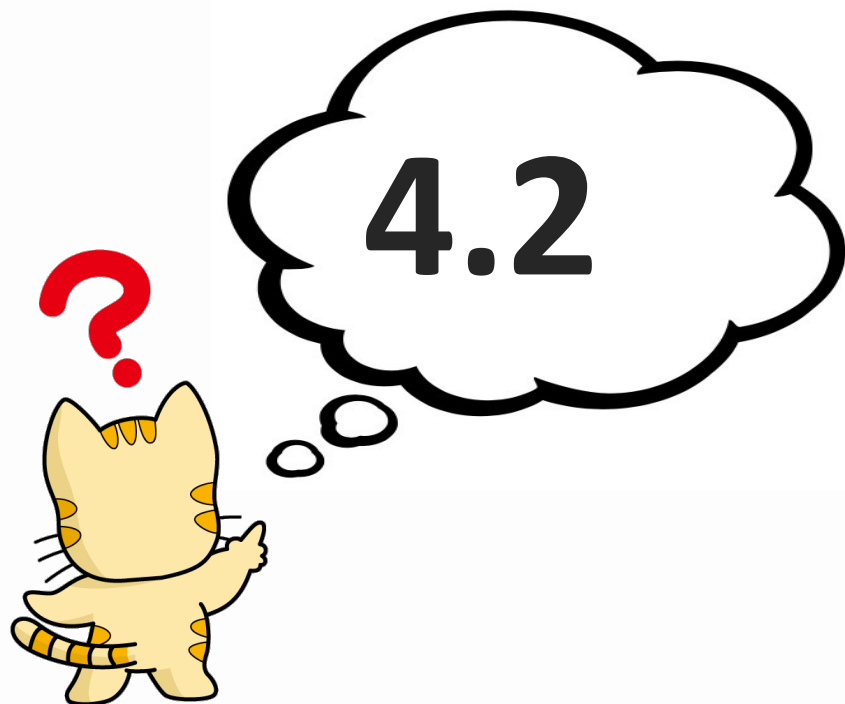
入り口から中継ぎまでを医療機関が担う仕組みが望ましいのではないか

一つのアイデア

- ❖ すでにある地域の機関と連携しながら
- ❖ すでにある情報も活用しながら
- ❖ 医療機関で利用可能な情報を蓄積しながら
- ❖ それでいて診断に参考となるフォーマット

用意できれば、省力化、継続性になるのではないか
目標は、今あるサポートファイルの医療機関版・機関連携版へ
結果として、医療機関のみへの負荷が減るのではないか





2022年度 追加実施分

- ❖ 一般初診者を対象に同様の統計解析を実施

初診の状況

- ❖ 当センターの2020～2021年の未就学児発達障がい専門外来の受診統計
 - ❖ 同時期全体初診者数 973件
 - ❖ これは発達障がい以外も含む総数
 - ❖ 発達障がい以外を主訴とした初診者数 711件
 - ❖ 発達障がいの病名がついた初診者数 177件
- ❖ 2020年1月から12月まで
- ❖ この件数について昨年度同様解析を行なった。
- ❖ なお、診療録の記録より統計処理を行なった



初診待機の解消・軽減が必要か

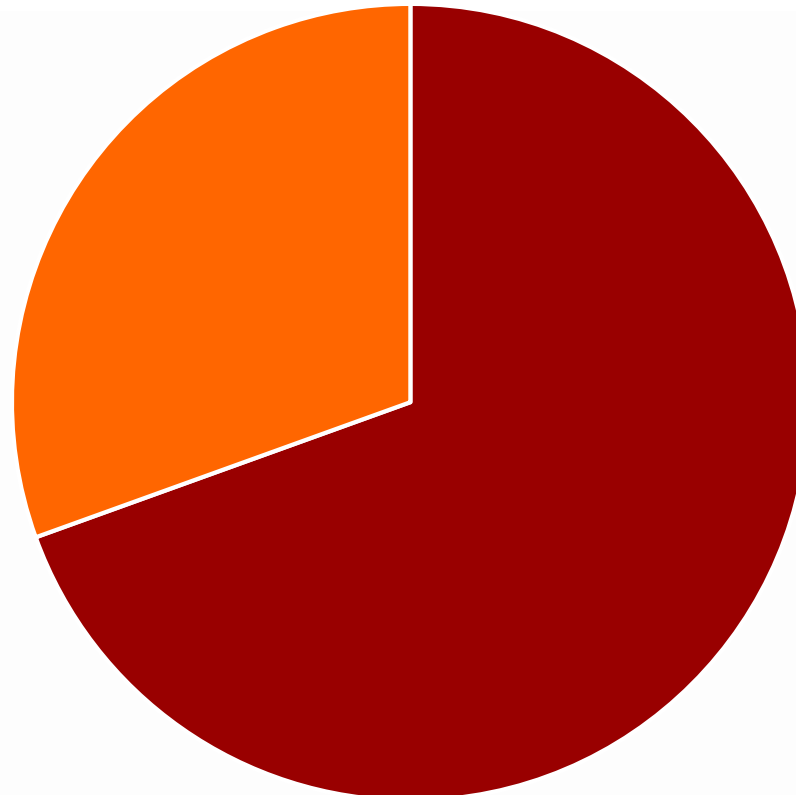
- ❖ 2023年3月1日時点で
 - ❖ 初診待機中央値 118日
 - ❖ 児童精神科領域で治療歴がないケースが半数以上を占める
 - ❖ 当センターにない機能を求めるケースも一定数あり（療育等）
 - ❖ 虐待など、独自の領域への対応も含む



初診の統計情報

♣ 男 123人

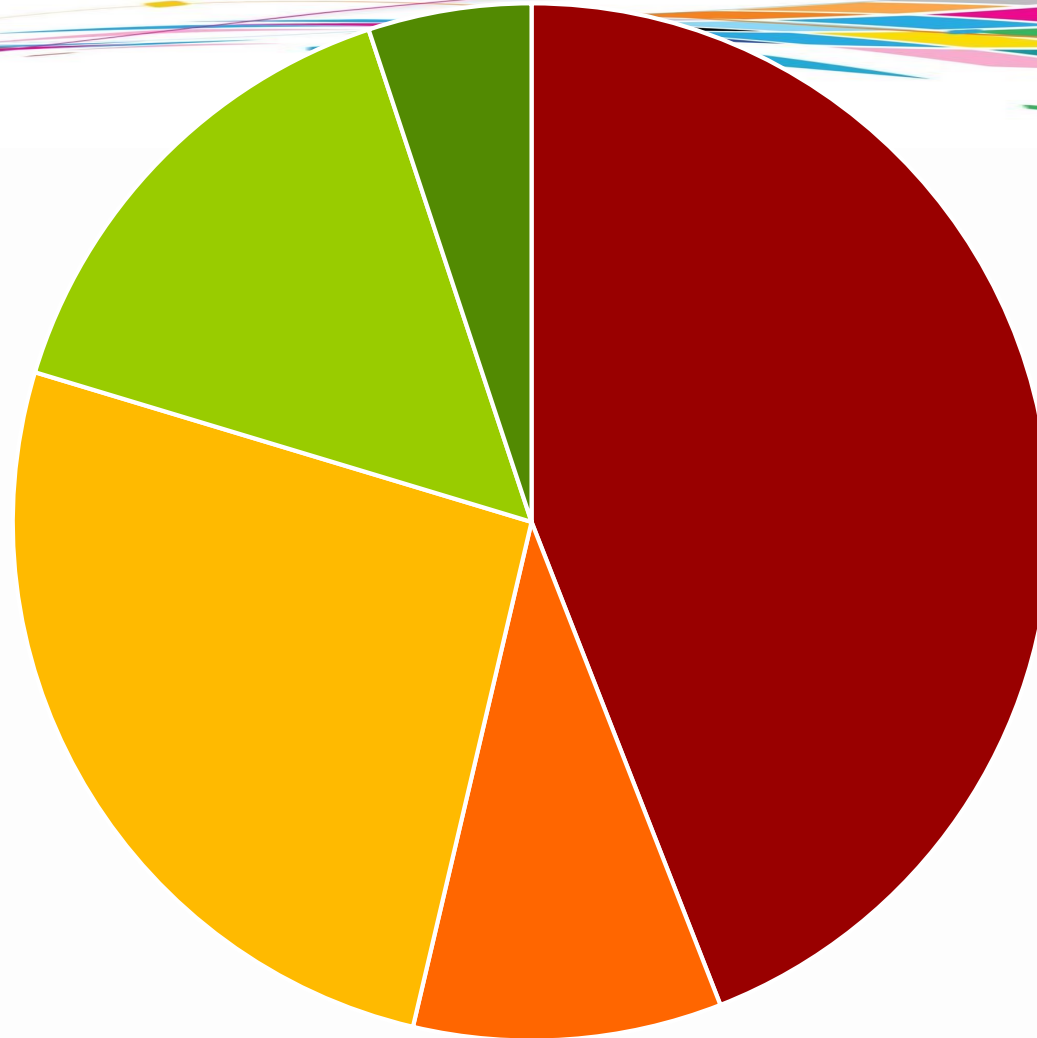
♣ 女 54人



■ 男 ■ 女



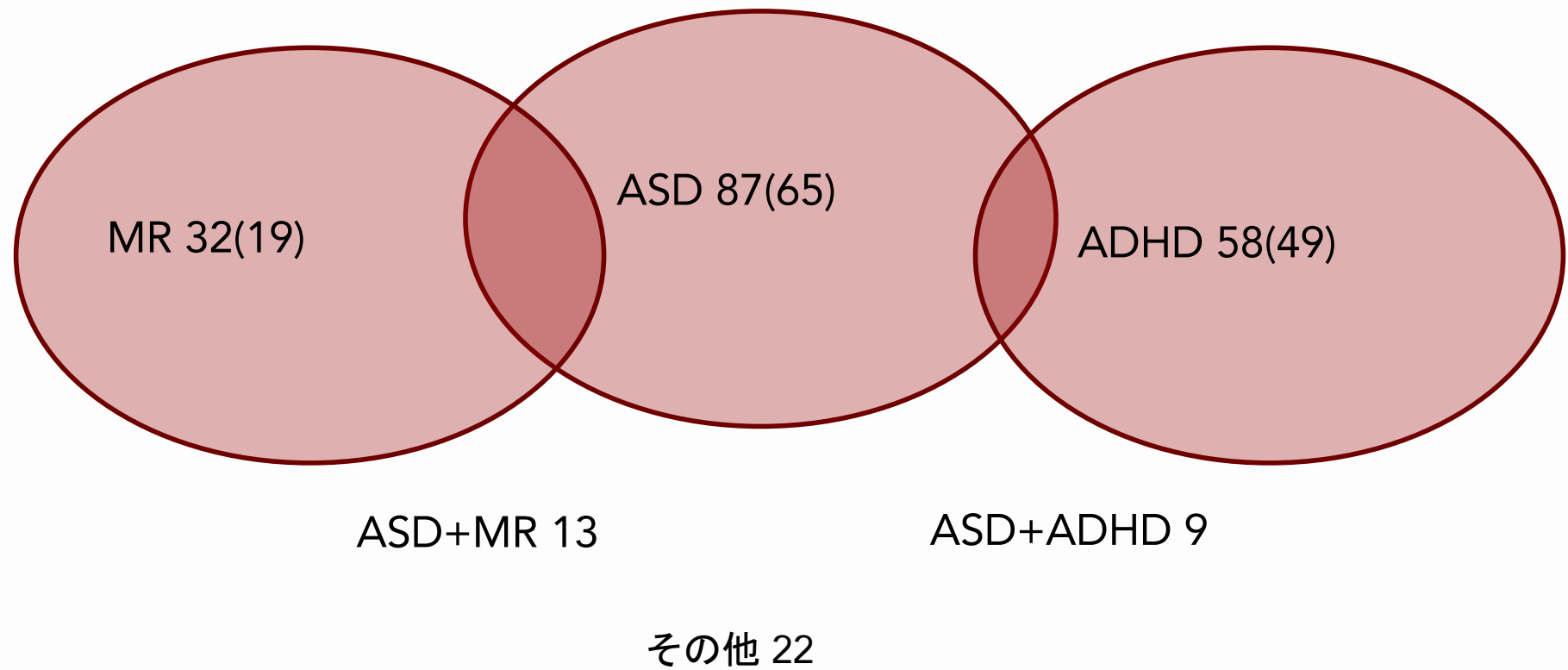
エリア別



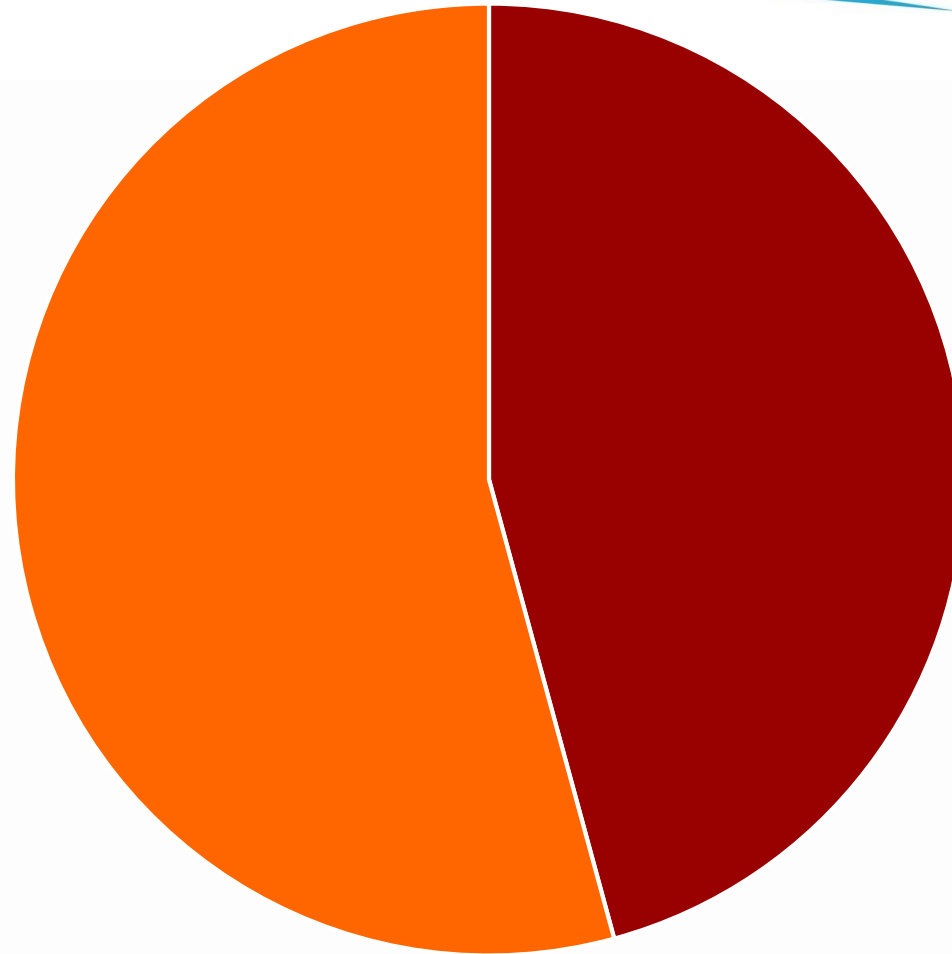
■ 泉州 ■ 南河内 ■ 堺市 ■ その他・府内 ■ その他・府外



診断



継続の有無

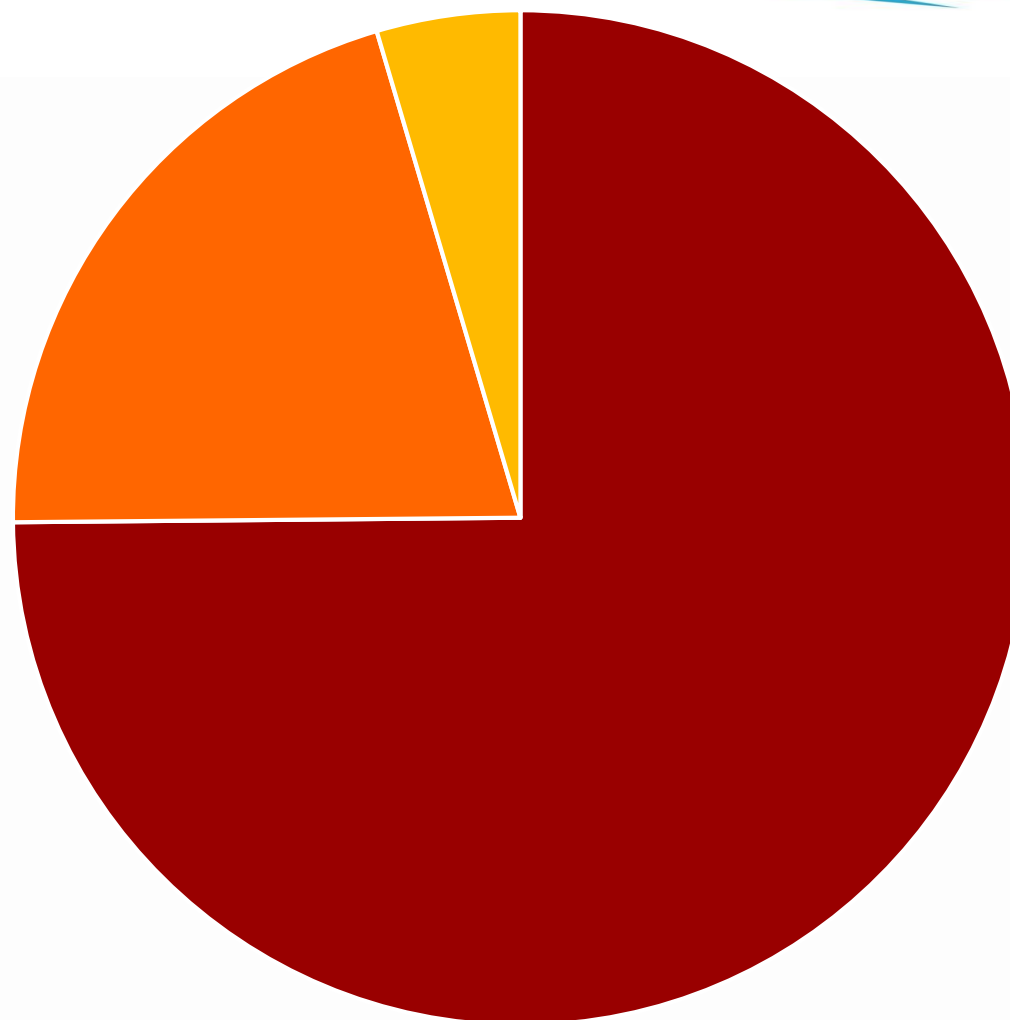


■ 当院継続 ■ 当院終了



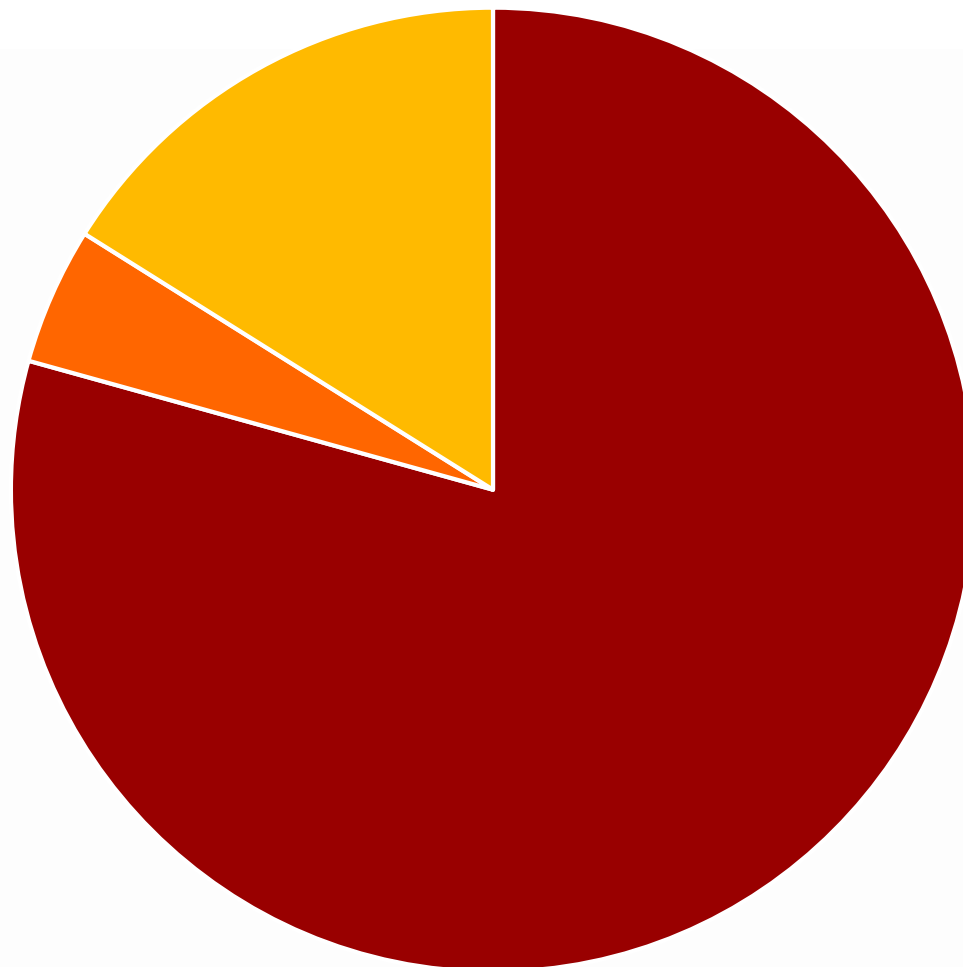


診療録から見た紹介理由 1



■ 診断 ■ 相談 ■ 学校より

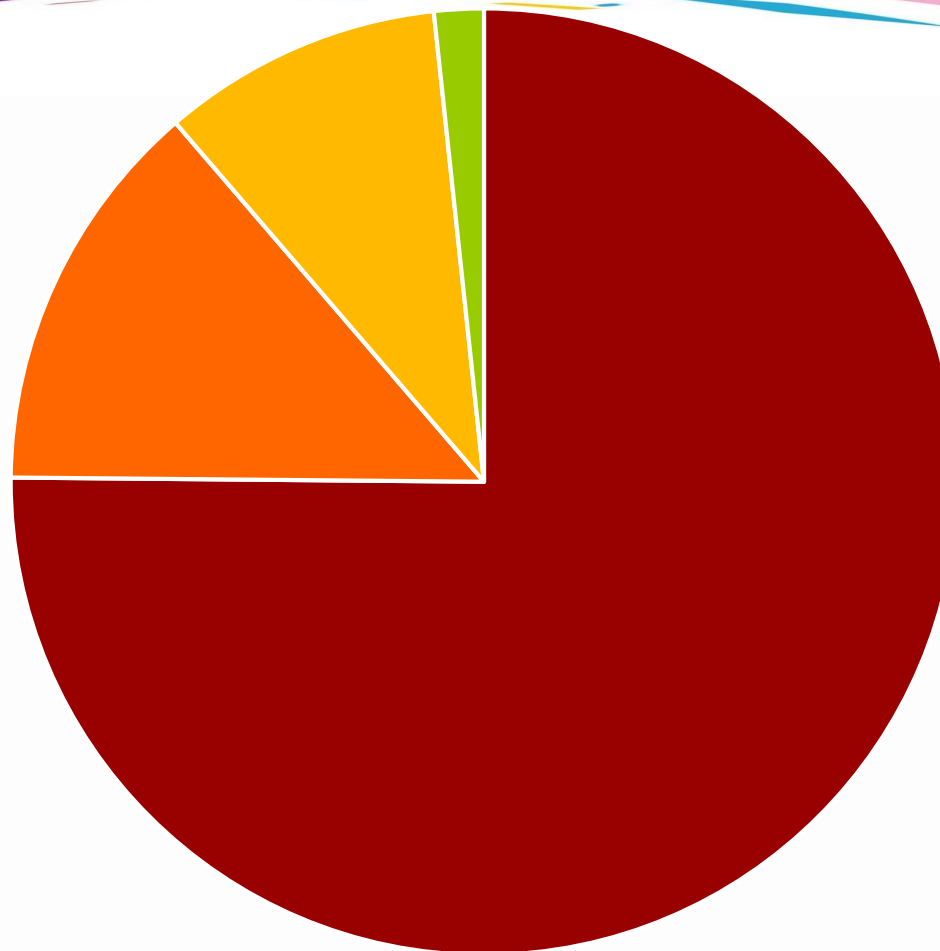
診療録から見た紹介理由 2



■ 発達 ■ 学習 ■ その他

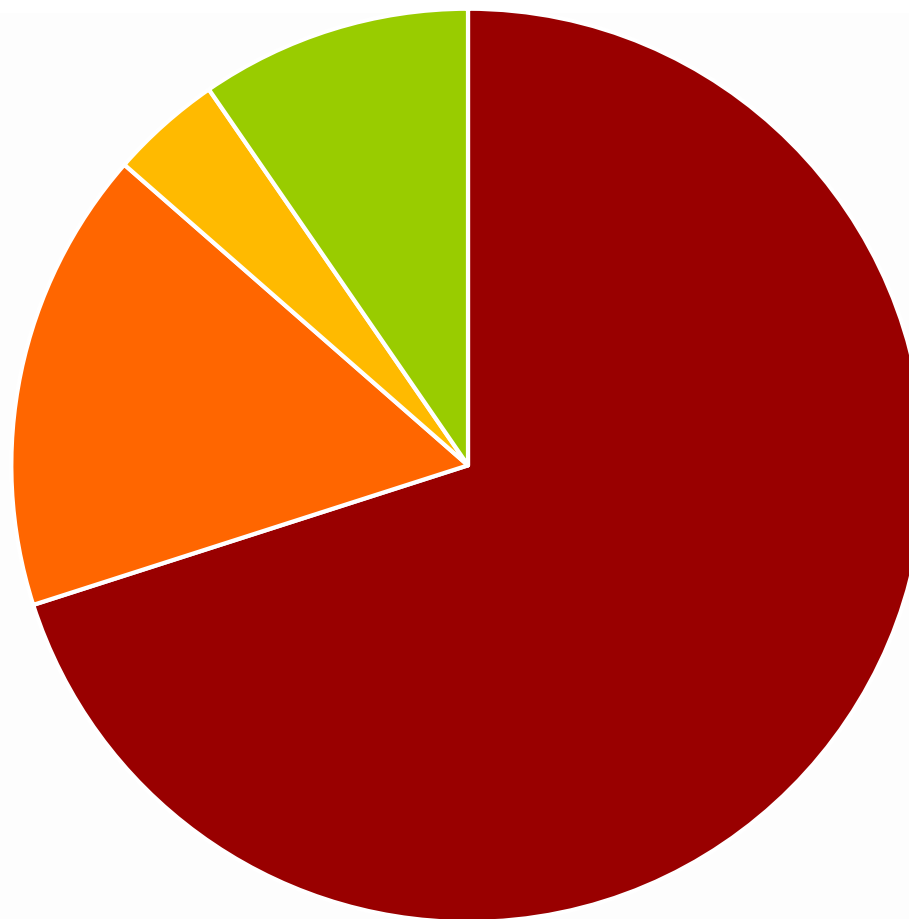


診療録から見た親の主訴 1



■ 助言 ■ 診断 ■ 学校から受診勧奨 ■ その他

診療録から見た親の主訴 2

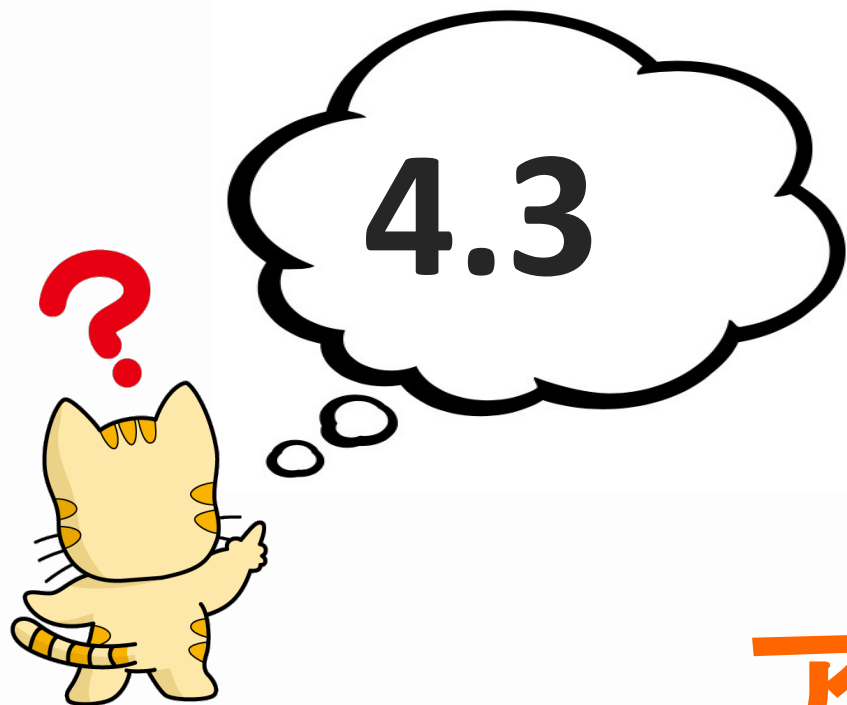


■ 発達 ■ 学校不適應 ■ 親が不安 ■ その他

統計処理から見たこと

- ❖ 発達障がいとして受診でなくても、「発達障がい」に関する相談が相当多い（約半数）
- ❖ 継続して約半数が受診している
- ❖ 保護者は「診断」より「助言」を求めている
- ❖ 「学校から受診勧奨」が10%以上あり、学習面での相談も含めると、医療機関への診断以外のニーズに対応している。





アセスメント 実施報告

試行の結果

- ❖ A市保健センター保健師に依頼
 - ❖ 紹介状ではなく、聞き取りを保健師が実施
 - ❖ まとめたものを、医師へ情報提供
 - ❖ それをもとに、診察時は行動観察中心
- ❖ 診察の結果と方針を、保健師へフィードバック

実施の内容

- ❖ 本年度は昨年度作成した項目をもとに、紙媒体とタブレットで調査記入を施行した。
- ❖ 試行として、12件実施
 - ❖ 事前に保健師が家庭訪問
 - ❖ 事例ファイル情報プラス追加聞き取り
 - ❖ このために必要な時間は30分～1時間
 - ❖ 書類記載、タブレット追記でプラスアルファの時間はあり

医療機関の変化

- ❖ 受診にかかる、医療者の対応時間
 - ❖ 診察について
 - ❖ 2時間から1時間へ
 - ❖ 診療録の記載について
 - ❖ 基礎情報記載の省力化に繋がる
- ❖ 2回目以降の診察について
 - ❖ 医療以外は保健センターが担う



デジタルデータを用いたことにより

- ❖ 実際に使用して
 - ❖ 記載資料の俯瞰がしやすくなる
 - ❖ データを加工し、移行支援情報として使用できる可能性がある
 - ❖ 印刷して保護者に渡すことも可能
 - ❖ テンプレート（パス）として使用可能性がある
- ❖ データ取扱いの注意は相当に必要
 - ❖ 専用の機器を用意する必要がある





今後について

2021-2022年度事業実施して

- ❖ 幼少期は診断が中心であったが、年代が上がると当事者に関わる周囲への対応を求めてきている
 - ❖ 例) 学校から
- ❖ 診断よりも相談・助言を求めて病院へ来ている
 - ❖ 診断のみで解決しないからであろう
- ❖ 診療に必要な情報をまとめて収集する難しさがある
 - ❖ フォーマットを用意すると素早く収集していた



令和5年度に向けて

- ❖ Covid-19下での研修の効果判定
 - ❖ 令和4年度の研修アンケートよりオンラインでも十分な研修は可能だが、一方実施の診療に関するより深い学習の希望あり
 - ❖ 可能であればオンラインと対面と混合研修を予定
- ❖ 地域連携についての普遍化への取り組み
 - ❖ 診療情報収集へは十分に活用できた。
 - ❖ 普遍化へ向けた運用のさらなる検討



